

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム なごみ
(ユニット名)	森の家
所在地 (県・市町村名)	宮城県 栗原市 志波姫
記入者名 (管理者)	三浦 幸子
記入日	平成20年 10月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	福祉会としての理念とごみ独自の理念がある。その理念を見やすい場所に掲示している。ディサービス、ショートステイを開始し理念を見直した。	地域の方々と共に心いくまでゆっくりなごみましよう
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員一同理念を理解しており、その実現に向けて努力している。毎月の目標を立て自己評価している。	日々の行動、言葉掛け等自己評価しながら、理念の実現に向けて継続し、努力する必要がある。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	契約時、入所時に家族等に説明している。また広報誌にも発行の都度理念を掲示している。運営推進会議でも表示している。	広報誌なごみ便りにも掲示している。(昨年の評価委員よりアドバイスあり)
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩時に近所の方達との会話、花、野菜をいただいたりしている。定期的に社協を通しボランティアの方の来訪あり。町内の方の指導により菊づくりをしたり、将棋を指しにきてくれる方もいる。幼稚園、小、中学校との交流もある。又地域協力員の方々と合同の避難訓練を年2回実施している。	老人ホーム、ディサービスとの交流。又地域の方と一緒に公園の清掃に職員と利用者で参加し交流に努めている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域での催し物、小、中学校の行事等にも参加(祭り見物、文化祭、民謡踊りの見学)。町の文化祭には作品を出品しホームの理解にも努めている。クリスマス会へ招待	季節の花を頂いたり、地域の方々の好意でジャガイモ掘りやブドウ狩りなど行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症対応型共同生活介護で平成19年11月から地域の貢献策として、短期入所介護、認知症対応型通所介護(共用型)を始める。夏祭りに一人暮らし老人を招待している。又随時見学者受入、実習生の受入している。		地域密着ケアの事業所としてグループホームの役割、誇り自信を持って取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員個人ごとに自己評価を行い、まとめている。一人ひとりが外部評価を理解している。指摘項目は改善に向け努力している。		職員一人ひとり自己評価する事でG・Hを理解し不足している点を見出している。職員全員で一歩前進出来るように努めている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年委員さんの交代がありました。会議を持ちG・Hを理解して頂き、地域とのパイプの役になって頂いている。なごみを理解していただくため、利用者と一緒に食事をしました。		外部評価結果を運営推進会議に報告すると共に推進委員の方のアドバイスあった家族旅行を実施した。推進会議に担当職員だけでなく、他の職員の出席を検討している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市福祉課長を推進会議の委員に委嘱している。通所介護及び短期入所介護を行うにあたり、ご指導して頂く。又その都度分からない点などを指導していただいている。市主催の研修会に参加している。		市町村との連携を取りながら、地域の中心的事業所として地域に貢献していく所存である。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ケアマネ研修や市、県での研修等に出かけて理解を深めている。今のところ活用されていない。		必要な利用者がある場合、その対応を考えてゆく必要がある。職員での学習会も検討したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加している。又内容を職員全員に会議等で伝達している。常にその事を念頭に置きながらケアを行っている。		身体的虐待、精神的虐待、薬物による虐待など学習会を行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>重要説明事項で契約時にわかりやすく説明し、理解を得ている。通所介護、ショートステイを行うにあたり同意書を書面で頂いている。</p> <p>契約時以外にも説明し理解していただいている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>不満、苦情を言う方が殆どない為常に日常会話の中から、不満等をキャッチしている。ちょっとしたサインを見逃さないように職員全員で努力している。</p> <p>常に会話を多く持ち、内面的な事を感じとれるように、また気軽に何でも話せるような体制を取っていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>毎月請求書発送時に日常生活の様子を手紙で知らせている。なごみ便りや写真を送っている。出納帳も毎月の残高を記載して送付。健康状態、外来受診もその都度連絡している。</p> <p>利用者、ご家族全員との協議情報交換の機会をもちたい。ご家族全員が一堂に会する事は難しい現状である。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>推進委に家族代表がおり意見をいただいている。面会時の記入場所に職員と外部者で苦情係を構成し連絡先を表示している。またボックスを設置。面会時に口頭でさりげなく聞いたりしている。</p> <p>同上</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>運営について福祉会全員で勉強会を行った。月1回の処遇会議等でも意見を聞き、参考にしている。又理事会や各部所の会議等の意見も職員に伝達している。(理事会に施設長が同席している)</p> <p>福祉会全体の会議や理事会に出席して、運営について様々な意見を聞いている。それを職員に伝達している。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>行事や地域での行事参加等にはあらかじめ職員の配置を多くしたり、その時々に応じて勤務の調整を行っている。</p> <p>通所介護利用者がある時は、必要に応じてパート職員で対応している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>適材適所を旨とし部所移動、棟内移動は極力少なくしている。変更ある時には必ず知らせ、不安を最小限に抑えるように努力している。担当職員が変わった時に家族に報告している。</p> <p>利用者とのお別れ会、新しい職員は利用者全員そろった所で互いに自己紹介を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
している。			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	極力外部研修に参加し、職員の資質向上を図っている。また研修内容をふまえて施設内研修を行っている。更に資格取得を積極的に勧めている。	新人職員には根気よく指導。グループホーム協会の相互評価や交換研修に参加しスキルアップに努めている。資格取得者には報奨金あり。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で毎年一回意見交換の場を設けている。またグループホーム協会ですべて研修や他施設との交換研修が4回あり日々努力している。	同左
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人間関係でのストレスが最小限にとどまるよう理解に努めている。研修会に参加し軽減に努めている。産業医による健康管理の相談を受けている。	何でも話し合える様雰囲気作りに努めている。意識調査を行った。仕事が時間内に終了するように記録などを検討する必要がある。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護職員のプロとしての自覚を促し、福祉関係資格取得を促している。	資格取得者は一定期間勤務した場合正職員に登用する道を拓いている。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者、職員の信頼関係が基本であるので、いつでも身体状態や精神状態を全体的に汲みとれる様日々努力している。	不安な事、気にしている事など何度も話してくるがその都度ゆっくり話をきいている。抱えている不安の受容に努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時において自宅での介護の様子などを入念に聞かせて頂き、ねぎらいの言葉を掛けたりしている。本人のみでなく、家族も含め安心して生活できるように、支援している。	ホームでの生活の様子等を家族にお知らせする等して密に連絡を取り合い、事故や誤解のない様に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたことに関して誠実に対応出来るように努力している。又入所申し込みに見えられ相談受けたときにアドバイスしている。		状態の低下がみられたときなど、医師、家族、職員とで今後のことを検討している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に自宅や病院に出かけ本人と話をしたり、生活の様子を伺っている。また家族と一緒にホームの見学に来られている。デイサービスは、お試し利用できる。デイサービス利用者が空室時にスムーズにショート利用できている。		ホームでの生活の様子、一日の流れなど簡単に本人、家族に説明している。利用者と一緒にお茶を飲んだりしてふれあいを持っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意な面を見出し発揮出来るように工夫している。様々な面で見習うべきことが多々ある。(料理、野菜作り)		出来ること、やりたいことを見出し一緒に行っている。感謝の言葉、励ましの言葉を掛けている。決して無理強いしないようにしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を受け止め職員の力だけでは不十分であり、家族と共に支え合いながら安心して生活出来るように努めている。行事年4回家族参加を実施している。		本人に新しい発見があったときに報告して喜んで頂いている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と一緒に買い物や自宅に行ったりしている。本人のいい面、出来たこと、出来ることなど家族に知らせて、喜んでいただいている。又不穏時に自宅に帰るなど家族の協力を得ている。		遠方から来られた家族には一緒の部屋で泊まって行かれる家族もいます。食事と一緒にこなって頂いています。可能な人には自宅に帰れるように働きかける。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区の祭り見学、友人、知人の面会、電話、手紙の推奨など家族の協力を得ながら支援に努めている。		ドライブがてら自宅周辺を回ってきたりしている。またなじみの美容院に行ったり、行きつけの銀行に行くなどしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が自由に過ごせるように、居場所の確保に努めている。利用者同士の関係を把握しており、座る場所など工夫している。活動を通し皆様と関わりを持てるようにしている。		廊下の一角のパブリックで仲良し同士、女性同士で話をしたり、又和室に足を伸ばし談話されている。デイ利用者も居室を訪れ会話している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了時に家族の方がとまどわないよう、支援に努めている。(母体施設への入所申し込み等をして頂いている。)		同左
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に会話の中から汲みとり、意向に添える様に努めている。家族の協力も得ている。		・特に外出したい人には隣棟で出かける時にも一緒に外出してもらっている。 ・将棋好きの方にはボランティア、デイサービス利用時にきてもらっている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ゆっくりと個々に話し合う事により、生活歴、好みや習慣を知りケアしている。	○	常に把握するよう心けが必要である。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活を共にする事で常に利用者に関わり、包括的に個人を支えられるように努めている。		個々人の毎日の健康チェックや一日の生活の様子(夜間帯も含む)の記録やセンター方式等を使用し把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を取り入れ、計画作成している。担当職員が課題分析を行い、それに基づいて計画担当者がプランを作成している。家族に説明し同意を得てから確認印をいただいている。又通所利用者のプランはケアマネの作成したサービス計画書を元に作成している。ショートステイのプランも同様に作成しサービスしている。		毎月1回カンファレンスを行い、評価(達成度)を行い確認し、モニタリングを行い、必要に応じて(状態に応じて)プランの見直しを行っている。 サービス担当者会議に同席している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人家族の意向を取り入れ、その人らしく生活できる様に計画を立て、支援している。入院等により状態に何らかの変化があった場合はその都度プランの見直しを行っている。		職員間で毎月カンファレンスを持ち、ケアプランの達成度等も話し合っている。(家族にも同意を得ている。)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに記録があり、毎日チェックする事で情報を共有している。ケアプランを毎日チェックし月末に達成度検討している。		同左
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望があった場合にはいつでも外出、外泊出来るようにしている。地域への貢献の一環としてショートステイ、デイサービス利用を開始している。		状態が低下して一般浴が難しい方には母体施設の機械浴を借りて入浴している。体重測定も車いすごと測定出来る体重計を拝借している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	推進会議、ボランティアの人たちからの情報や防災訓練等においての地域協力員の方達の助言を頂きながら、共に暮らしている。年2回の総合防災訓練には地域協力員、消防署員の協力を得ている。消防署に出向き救命講習を全員受講して方が一に備えている。		・社協のボランティア月2回、その他菊作りの指導、折り紙、芸能、将棋ボランティアなど数多くきて頂いている。 ・地域で行う文化祭、民謡、踊り見学に参加。 ・小、中学校の運動会、文化祭への招待。 ・移動図書館を月2回利用している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホームを最後の住み家とご本人、家族が捉えている方も多く、ターミナルもお願いしたいと言う要望もあります。状態低下での支援を検討しています。		同左
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向、必要性に応じて包括支援センターと連絡を取り合っている。		・包括支援センターよりディサービス利用のことで問い合わせなどある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医の関係を大切にして必要に応じ受診を行っている。通院は家族の状況を考慮し職員が対応している。退院の受入も不安があったが状態が悪いときはいつでも受診するようにとの主治医の言葉に励まされ、退院後も安心して支援する事が出来ている。	○	次第に状態低下しており、医療行為が必要になってきているので医療機関の方々と密接に情報交換してゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	メンタル受診の支援を行っている。母体施設に月1回精神科医の診察あるので必要に応じ相談しアドバイス受けている。		入所前より受診されている方を家族に替わり、通院の付き添いを行っている。家族も同行する時もある。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体施設の看護師に直接処置を依頼したり、相談して指示を得る時がある。		ちょっとした傷の処置、湿疹等をみてもらっている。その結果により病院につれて行ったりする事もある。自分達だけで判断し兼ねる時は相談している。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院時は必ず家族に同行し情報交換及び相談に努めている。入院中はたびたび面会や状態を伺っている。今後のことを看護師と話し合い早期退院に努めている。		退院時医師、家族、職員との面談をしている。私どもの思いも伝えることができた。また先生から励まされ、勇気づけられた。これからも必要である。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為の必要性のある家族に働きかけ老人ホームに申し込みする。看取り介護の具体的支援内容はまだない。	○	高齢と状態低下で看取り時期に入っている方もいる。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	契約時医療行為が必要な場合はグループホームで出来ない旨をはなしている。		次第に状態低下して、食事摂取量減っており外来で点滴をしている方いる。食べられるものを時間を決めずに摂っていただくように配慮している。寝たきりではないが重度化している。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームを退所する際には、前もって本人にも話している。時々老人ホームのことを話題にして出来るだけ不安にならないように努めている。		家族にも十分に話し理解して頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に様々な場面において尊敬し支援している。(呼び方、目線、口調、声のトーンなど)	お年寄りを尊ぶ気持ちがないと、いろんな場面に現れてくる。いたわりの精神をもち生活するように常に心掛けている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の利用者に合わせ話し、自己決定出来るように支援している。自己決定が不十分な利用者には特に注意して対応に努めている	耳元でゆっくりと話している。時には必要に応じて筆談で希望を聞いたりして意思を確認している。また独善的考えの行動をとる事がたまにあるのでその時には家族を交えて話し合っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の心身状態に応じた生活のリズムを把握し自分なりの生活が出来るように努めている。又個々人の力量、要求を察し支援している。	夜間のテレビの時間帯も決めていない。他の利用者の迷惑にならない音量でスポーツ番組を見ている方もいる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容院への送迎支援をしている。出張床屋は本人の希望に合わせている。身だしなみ、おしゃれもその人らしく行えるようお手伝いしている。	同左
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養面に配慮した献立で旬の食材を取り入れている。風習や行事などを考慮している。利用者、職員で食事の準備をしている。そして楽しく食事出来るよう配慮している。月1回出前の日を設けている。	食事前にトイレ誘導、テレビを消し明るく楽しい話題でゆっくり食べている。利用者にあわせ「刻み食」にしたりしている。日曜日はフリー献立を利用者と一緒に話し合って作成している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間以外にも自由に飲めるよう、コーヒー、紅茶、ココアなど準備している。又喫煙する方はその都度喫煙コーナーで職員が見守りしている。	お酒は行事のときに提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿表を記録し一人ひとりのパターンを把握して支援している。誘導にも配慮している。オリゴ糖で便秘対策している。		オムツは出来るだけ使用しない方針です。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日～土曜日まで毎日入浴出来る。ゆっくり入浴出来るよう、事故がないように個々に合わせて支援している。誘い方を工夫している。菖蒲湯、ゆず湯などで季節感を楽しんでいる。入浴時間は大体決めている。		母体施設の浴槽を拝借している利用者もいる。足浴器具を使用している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し支援している。日中は散歩や外気浴等活動を行い夜間はゆっくり眠れるよう支援している。光の調節。音、気温などに配慮している。		冷暖房も居室に設置してあり使用している。入所後眠剤を中止した方もいる。
を				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月の行事、外出、誕生会その他多種目に活動を準備し好きな事を選択できるようにしている。(料理、手芸、菊作り、畑、将棋、図書館、折り紙など)		個々人の見いだせない部分を、もっと深く理解出来るように努めたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時には自分で支払いしている。日常的にも管理出来る方は本人が持っている。無理な方はホームの金庫に預かっている。		家族より預かったときは預かり書を発行している。個人の出納帳を毎月家族に渡している。確認印を頂いている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を出来るだけ取り入れ行ってみたい場所、馴染みの場所などに出かけている。散歩、隣棟、母体施設、デイサービスセンターなどに行き来している。特に小、中学校の催し物の時は招待受けている。		車椅子の方や車酔いされる方なども状態に合わせて外出している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年は石巻方面への家族旅行の外、彼岸花見学、蓮祭り、ブドウ狩り、舞踊見学など選んで頂きでかけている。紅葉狩りは2、3人ずつで出かけている。		同左

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人とはがきを交換していた方も最近互いに途絶えてきている。小、中学校へ出かけた際のお礼状等、又お孫さんからの返信など支援している。		年賀はがきを活動の時間に取り入れている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お客様に対しては(面会の方)又きて頂けるよう、居室に飲み物を運び寛いで頂けるように支援している。面会時間の制限無く、夕食後に来られる家族もいます。		出迎えや帰られる時にはお礼の言葉を交わしている。
9				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者は無論、職員は常にそのことを念頭に拘束のないケアに努めている。拘束、虐待の研修に参加し理解しあっている		同左
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。職員が目配りしている。又外出傾向にある方に対しては、併設施設に情報提供し協力体制をとっている。		常に利用者の居場所を確認している。外出傾向のかたの持ち物に注意している。(バックを持つ。化粧をする)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の居場所の確認に努めている。夜間は全居室窓に施錠している。又地震対策も万全です。落下物の防止食器棚、テレビ等の転倒防止をしている。		同左
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じ取り組んでいる。(洗剤類、義歯洗浄剤、はさみ、包丁)その他危険物などは専用の倉庫にいれ施錠している。		認知症の進行につれ突発的行動出てきている方あり特に気配りしている。(歯ブラシにハンドクリームをつける等の行為など)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者事故防止対策委員会で、全体的に事故対策に取り組むそれを踏まえ事業所において、利用者のADL状況などからみて個別のリスク管理表を作成し、一人一人の状態を把握し状態に応じた支援に努めている。		同左

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル化して見やすい場所に掲示し常時熟知出来るようにしている。AED(除細動器)設置し講習受ける。福祉会全職員が救命講習会受講した。赤十字応急手当の講習会参加。	定期的な勉強会やあわてずに対応出来るように各自学習する必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回避難訓練を実施している。又年2回消防署立ち会いで、地域協力員の参加のもと行っている。(夜間想定も行っている。)自動通報装置を設置している。業者による定期的点検を施行。	地震対策も行っている。67参照
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に説明している。又面会時にも必要に応じ話しあっている。	同左
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ちょっとした体調の変化も見逃すことのないよう常時努めている。利用者の健康チェックし記録している。又外来記録を記入し共有している。また必要に応じ家族に報告している。	○ 看護師が常時いるわけではないので全員が早期発見出来るよう努力している。母体施設の看護師に相談している。食事摂取量、体重測定、排便有無、水分補給の確認
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の保存、服薬確認。服薬一覧表を作成し見やすい場所に掲示し確認している。睡眠薬、安定剤、下剤は医師と相談し調整している。薬の変更時は特に状態観察を強化している。	同左
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量の確保出来るよう配慮している。毎日の牛乳と野菜、海藻、ヨーグルトなど盛りだくさん取り入れた料理。散歩などして身体を動かし便秘予防に努めている。オリゴ糖を飲用し下剤を減らしている。	入所後自然排便になった方、毎回下剤を使用しなくなった方もいます。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、晩の歯磨きは個々に応じ支援している。昼食後にも声かけしている。又うがいを支援している。	義歯もなく、うがいも出来ない方には、食事後にお茶を摂取して頂き口腔内に食物残渣ないかを確認している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調に合わせたカロリー、糖分、塩分の摂取に努めている。状態に合わせ補食も準備している。食事摂取量を記録している。栄養士の献立作成。1日1400カロリー。必要に応じ刻み食、ペースト食にしている。		同左
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成しこれに基づき実行している。手洗い、消毒、温度湿度の管理、調理器具の消毒。利用者、職員全員インフルエンザの予防接種している。結核検診受けている。		感染症の病原体は常在菌な為感染しやすいので細心の注意を払い予防に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に冷蔵庫内の整理、消毒をしている。調理用具は毎日消毒する。生鮮食材は1日分ずつ発注している。		調理した食品は翌日まで持ち越さない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに季節ごとに花を植えベンチを置いていつでもどなたでも休むことが出来、		老人ホーム、デイサービス利用者の方も見えられ、一緒に談話している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体天井が高く、木のぬくもりがあり心地良さが伝わってくる。天窓から光が差し込みゆっくりくつろげる様配慮している。		・室内の温度や換気に注意し、照明も優しくしている。 ・季節ごとに装飾を変えたり、夏にはすだれ等をつけて西日を防いでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の一角にパブリックを設け読書をしたり、外を眺めながら過ごせるスペースがある。又、この場所で喫煙をする方もおられる。		同左

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、本人に合わせた室内環境をつくり、それぞれ個性的になっている。花好きの方はたくさん鉢を飾っている。		ソファーやこたつ、カーペットを敷いたりしている。又飾り物、置物等も様々である。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温湿度計にて常時配慮している。又こまめに換気し空気がよどまないようにしている。補助具をつけ、冷暖房が直接身体にあたるのを防いでいる。		空気清浄機、加湿器、トイレにはパネルヒーターを設置している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差無し、手すりの設置、バリアフリー構造。トイレは車いすでも楽に入れる広さ。足元灯完備。		同左
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室が分かりやすいような表札を工夫して、つけている。時計、カレンダーも本人が一番見やすく、分かりやすい場所に置いている。排便したのをすぐに忘れる方には、トイレに記入出来る小さいボードを準備している。		同左
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りや玄関に草花を植えたり、畑で野菜を育てて収穫をみんな喜び合っている。農村公園も隣接されており、散歩したり、お茶をそこで飲んだり、秋には栗、クルミを拾って楽しんでいる。又敷地内にも栗や梅の木があり、収穫している。		同左

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・職員体制を常時3～4人体制にすることにより、一人ひとりの利用者へのケアが充分に出来る。
- ・経験に応じた研修を受講してもらいスキルアップを図り現場で活かしている。結果殆どの職員が何らかの有資格者である。
- ・農村公園に隣接している事から外気浴や散歩・お花見・どんぐり拾い・栗拾い等四季折々の楽しみを行え又室内からも愛でる事が出来ます。
- ・近くに新幹線の駅や高速道路のインター等有り交通の便にも恵まれている事から遠方の方々も良く面会に来られます。
- ・共用型のデイサービス・空きベッドを利用したショートステイ等を行っています。利用者の家族野かたがた
- ・交通の便の良い所で民家の中にあり、大型ショッピングセンターもすぐ近くで住まうにも便利な所です。
- ・グループホームとしては5年目ですが、特養ホームは25年間の歴史があり地域の福祉資源として率先して牽引役を引き受けて来ました。
- ・良心的な料金である。医療関係は比較的近くその利用が便利である。建物は、木造でぬくもりがある。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム なごみ
(ユニット名)	古 都
所在地 (県・市町村名)	宮城県栗原市志波姫
記入者名 (管理者)	
記入日	平成 20年 10月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>福祉社会としての理念と「共に笑い、喜び、哀しみ、楽しみ、助け合いゆったりなごみましよう」の「なごみ」独自の理念があります。</p>	<p>地域密着型サービスとして平成19年11月より共用型デイサービス、ショートステイを行なっています。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>研修や処遇会議に於いて、理念は目標でありまた、理念を根底に日々のケアを行なうようにしています。</p>	<p>玄関を入った所に掲示しているので出勤したら心に留めてその日の指針にするように話しています。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>広報や面会室などに掲載したり、会話の中で読み取れるように努めています。</p>	<p>お客様の来園時にはフロアに入る戸そのものに「なごんで下さい」の布製の「のれん」を掲げています。左記と同様。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や朝の出勤時には「挨拶」や「一声」声掛けを行なっている。職員にも見かけたら声掛けする様話しています。又季節の花・野菜を頂いたり、定期的に訪問を頂いたり菊作りを指導して頂いています。</p>	<p>特養ホーム・デイサービスの方々の訪問・「地域協力員」体制を整え、異変時のみならず何かとお世話頂いていますので地域の方々とは親しい関係でいます。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>事業所としては、祭りや催事に積極的に参加し交流できるように支援しています。</p>	<p>・春の除草奉仕・秋の落ち葉拾い・芋掘り会や園での夏祭り時プログラムの一端を担って頂いています。園での各行事への招待参加を頂いています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・空きベットを利用したショートステイ ・共用型デイサービスの開始		地域密着ケアの事業所として多様性に富むサービスを実践して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月のケース会議及び引継ぎ時には問題点を共有したり、事故評価の目線で取り組んでいる。また自己評価を各自行なう事により日々のケアの見直しを行なう事が出来る。		各自自己評価をする事により、グループホームを理解し、ケアの見直しをおこなったり、共通理解を深めたりする事が出来ると認識している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行なわれていて活かせる点については、即実行するようにしている。		なごみの近況報告や事業報告等を行うことにより、なごみを理解していただいたり、協力していただいたり、また次の議題提供をしていただいたりとサービスの向上につながっていると思われまます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	業務で難しい場面が生じたりした時には指導を仰ぎ、また何かと訪問していただけるように取り組んでいます。		相談窓口として気軽にお付き合いして頂きたい。空き情報や現状報告をしネットワークの拠点として利用者と事業所の掲示板的でしかし総合的な役割を果たして頂きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修などには積極的に参加し、研修内容を処遇会議等で伝達している。		同左
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他事業所の事例やマスコミで取り上げられた場合に検討会を行なっています。		・どんな事が虐待になるのか事業所としても時間をとり何度でも学習会を行ないたい。又早急に基本的な資料は提示するようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>管理者及び介護支援専門員の有資格者が担当している。そして契約時に判りやすくご説明すると共に、不明の場合は一度ならず何度でも対応するようにしています。</p>		<p>デイサービス等の新事業も軌道に乗りつつあり、ご家族様からの理解も得られております。これからも機会あるごとにご利用者様、ご家族様には説明していきたいと思っております。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>面会時や諸文書郵送時、または電話で質問された場合など伺い反映するようにしています。他に意見箱をもうけて呼びかけている。</p>		<p>利用者の方々は書くと言う事が不得手であることから、何でも話せる雰囲気を日頃から培っている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>毎月上旬にお手紙、出納簿の写しを郵送し、定期的にお知らせしています。また面会時に小遣い帳・ケア記録等に説明し同意を頂いています。</p>		<p>面会時には居合わせた職員が対応しているが担当職員が居合わせた時には主にその職員が報告・応対するようにしている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>外部評価機関のアンケートが外部者へ表せる機会である。相対的に反映できるかもしれないが、直接的には無理である。推進会議で家族代表がおり意見を伺ったり、面会時に口頭で何う様努めています。</p>		<p>家族会等利用者同士の顔を合わせる場を設けたい。苦情相談の名称ではなく「何でも相談」として広報誌に掲載してもいいのではと思っています。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>常時引き継ぎ帳や処遇会議の席上又日々の業務の中で意見を聞くようにしている。</p>		<p>文書で提案されたものについては行い易いが日常業務の中でのものは流され易い。個々に記録して貰い日を決めて検討する日を設けたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>変則的な勤務体制なので不測時の対応の為人員を確保している。又職員には調整に関しても多大な協力をして貰っている。また家族の状況の変化などにも、柔軟に勤務交代をして対応している。</p>		<p>勤務表作成に際し職員全員に休み希望を聞き対応しています。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>異動は出来るだけ行なわないようにしています。しかし職員の資質に関する場合はその限りではない。変更ある時には必ず知らせ不安を最小限に抑えるよう努めています。</p>		<p>新事業を行なうに当り職員の増員を行ないました。この4月より棟異動も含め8名の内3名が替わっています。しかしもう馴染みの関係は作られたと思っています。お別れ会や新職員紹介は必ず全員揃ったところで行なっています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に自主トレーニングであるが園全体に制度があり、積極的に活用しています。計画は1人2～3回の研修を予定しています。	介護の現場は実務経験3年で介護福祉士、取得後経験5年で介護支援専門員と目標とすべき資格が明確です。又スキルアップの為にこなう個人研究を支援していきます。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とケアマネと年1回の意見交換会を行い、交換研修も何度か行っている。	交流することにより、自事業所の長所・短所を発見し具体的にそれ以後の仕事に活かせる様にしている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1度意識調査(アンケート方式)を行なっています。恒常的に時間外にならないように時間内に記録出来る様割り振りしている。しかし管理者や経験の長い職員には負担の掛かる率が高い状況である。	チームケアについての意識調査を行っている。アンケートを取ることで職員間の意識統一もかなり違ってきているように感じられた。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	能力給の給料体系を考慮中。資格取得者には報奨金が出ています。頑張っている点を誉める。笑顔で働ける職場環境を創る。職員個々人を見る様務める。	左記を具体的に実践すること。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初に面接をした職員がどれだけその方を知り得るかにかかっている面(アセスメント)が大事であるが、入所後は個々の職員の努力が大事である。	目で訴えられる方、言葉で発せられず身体で表される方にも適切に受け止める努力している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時に伺う事としている。ケアプラン作成時又入退院時必ず病院に伺い医師及び看護師より家族と共にお話を伺ったりしている。	左記の通り。その為にも自身のスキルアップが当然であるし仲間のネットワークも力になるので大切にしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた事に関して誠実に対応しています。又入所申し込み時に待機者となる方にもアドバイスをしています。		状態の低下がみられた時は、その都度医師、家族、職員とでその都度検討しながら支援している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用前に自宅・病院に出向きご本人と面接し生活の様子を伺ったりお試しサービスを実施して頂いています。本人を知り、何が求められているかを引き出し、共有するように努めています。		ホームでの生活の様子、一日の流れなどを興味を持っていただけるようにお話しています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事全般・活動など教わりながら行なっている。		出来ることやしたい事を見極めながら行っています。人生の先輩なので教わることの方が多いです。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	変化の生じた場合には連絡を取り合い相互の協力が無ければいけない今の関係を継続していきます。		やはり肉親や自分を気に掛けてくれる友人・知人の面会は取分け嬉しいものです。その方々にも広報等出来ればお渡したいと思います。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	電話を直接掛けたり、訪問時に居室で当事者同士で話し合いが出来るように支援している。		同左
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時には馴染みの物品をお持ち頂いています。友人宅に行きたいとの希望があれば出来る限りの対応に努めています。		同左
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	小さいトラブルは見受けられその都度対応し長引かない様に間に入って対応しています。又活動時、面倒を見る相手を相互に確認しあったり様子もあり、日ごろから支援しています。		状態に応じた部屋割り及び座席を決定していますが、話し合いの元変更すべきであればその様に行なってゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	該当者なしですが今後あれば広報郵送等で関係してゆきたい。		同左でご質問を頂ければ対応を致します。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や会話の中から意向確認を行ない、希望を叶えるように努めている。また面会時には家族の意向も伺っている。		具体的な意向や意見があまり頂けなく日々の生活の中から汲み取り本人本位に検討しています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメント用紙B-1,B-2(家族構成等)直接記入していただいた方もいます。それ以外はアセスメント時又は日常生活の中で伺いながら活かす様に努めている。	○	一人ひとりの生活歴を知り推し量ったケアを出来る様に、記録物や家族に伺った事により知る努力をしてゆきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	最初に会ったときに全身状態の把握に努め、次に記録と照合するように努めている。		誰かを必要としているサインを見逃さない様にみんなで気をつけています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	先ずケアスタッフとの検討課題からの記録と訪問して下さる家族の意向を伺いながらまた本人の意向を聞きだしながら作成するようにしている。月1回のカンファレンス時にはそれぞれ皆で評価しあい、見直しも必要であれば話し合い、取り入れるようにしている。		限られた時間にポイントを絞ったケア会議を持ちたいと思います。記録時間をとるのは難しいのですが、あえてきちんと記録できるように習慣付けたいものです。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院時や状況に応じて見直しを行なっている。		同左

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	要注意者には別ノートを用意し、記録する事で職員間で確認しながら支援するようにしている。また介護日誌・引継ぎ帳に気づきや工夫も記録する様に努めている。		同左
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望があった場合にはいつでも外泊・外出ができます。通院については職員の付き添いのもと行なっています。地域貢献としてショートステイ・デイサービスを行なっています。		同左
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議・地域協力員会議・防災訓練どれ1つとっても協力を頂かなくては推進出来ないものです。またボランティアさんから花や作品の差し入れがあります。		今後も今まで以上にご協力を頂くよう努力したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	中にはターミナルも是非こちらでお願いしたいとの要望もあります。状態低下での支援を検討しています。また時に応じて介護タクシーを利用したりもします。		同左
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所にあたり交流を持っているものの平素は協働場面が少ない。		職員の異動(特に計画作成者等)があった場合には、訪問するなどして顔見知りになっておくようにしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常時日常的に行なっている。	○	今後ターミナルケアを考えた場合一層重要となりますので、医療機関の方々とは密接な情報交換をしてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	計画的に専門医の研修は受講出来るものの、現場は既に確定した方々なので問題が生じた際、職員の相談にのってもらっている。		専門医とは最近関係を築き始めたばかりである為、支援を頂ける様お願いします。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	変化があった時、またはどうしたらよいかわからない時は、提携医院の看護師の助言を受けたり、来園を頂き行なっています。		同左
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院時に於いて必ず管理者が家族に同行し、情報交換及び相談に努めています。又職員も出来るだけ見舞うよう努めています。		今後も同左
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為の必要性のあるご家族に働きかけ看護師常駐の特養に申し込みをして頂いています。ターミナルケアの具体的な支援はまだありません。現在のところ施設としては今のところ不可の状態ですが、高齢で状態が少しずつ低下している方がおり、変化があったらその都度主治医と相談しながら対応しております。	○	今後も同左
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	契約時医療行為が必要な場合はグループホームで出来ない旨を説明しています。また高齢の方が多いため今後の変化についてはその都度上司の指示を仰ぎながら対応したり、変化の合った場合の連絡先については職員間で確認しながら夜勤等に備えています。		同上
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	努めています		同左

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩者である視点を忘れないように、子供に対する言葉掛けや誘導の際にも手首を持たない様注意しています。個人情報の保管は今後注意していかなければならないと感じている。日誌等の記録を目配りしながら行っているためその辺も検討課題であります。	全てに於いて自分がして欲しいように行い、して欲しくないことは行なわないこれが基本です。これを守って行きたい。排泄の声かけをする時にみんなに聞こえないような配慮の徹底を行って行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々人に伺いながら支援をしています。	着衣についても自分で着られない方にもその日に着るものを選んで頂ける様声掛けを行なって行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝・昼・夕にも体調や気分に変化を見ることが毎日です。口に出せる方については出来るだけ対応しますが、出来ない方については寄り添い、要求を押し量るように支援しています。	今後も同左
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理美容室へ送迎支援を出掛けられない方にはお出で頂いています。家族が付き添って行く方もいます。	今後も同左
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ「これは自分の仕事」と役割を持ち一緒に何らかの仕事を行っています。	今後も同左
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	持病のある方が多く禁止されていることもあり、特別な日の楽しみとしています。それ以外の方には出来る限り希望に添えるように配慮しています。	今後も同左

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人一人の排泄パターンを把握し出来る限りトイレでの排泄を支援している。		オムツは出来るだけ使用しない方針で改善の可能性があればご本人職員の取り組みを今後も行なっていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	略毎日入浴しています。しかし入浴時間については定着していることもあり午後2時以降になっています。又個々の状態に応じた入浴形態を取り入れています。		日曜日は各種清掃の為に風呂の準備はしていないが、希望があればいつでもシャワー浴で対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息はその時々で居室だったり、ホールのソファだったり、和室の畳だったり気持ちよくつろいでいただけるように、本人の表情等をみながら支援しています。また室内の温度、湿度にも十分配慮しながら行っています。		同左
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	天気に合わせて又気分に合わせて事前に分る分については計画に、季節に合った行事をマンネリにならない様に支援していますが体力と能力に限界があり希望としては行って頂きたいものの近くに寄って行くだけの体力しか持ち合わせていない方が多くなっている。		最近活動の係りを設けてこまめに活動内容を検討しながら行う方向にあります。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時には当然ご本人が支払うように考えていますが、現在のところ出来る方が少なくなっている現状です。又日常的にも管理できる方については本人管理を推進しています。その際ご家族は大体の所持金を把握しております。		今後も同左
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別対応に努めています。ドライブについては個別対応とはいかぬものの、近隣であれば行っています。		出かける方がいつも同じ人にならないようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族同行については大いに推進しております。		是非ご本人が大変喜ぶことをお伝えし、年に何度でも「可」であるのでお勧めする。帰ってらした時にはねぎらい「次回も」とそれとなく一声掛け勧めます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話できる人はしてもらい、出来ない人にはやりとりが出来る様に支援している。		同左
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お客様に対しては特に又来て頂けるように、居室にお飲み物を運び寛いで頂く様に支援しています。		居室で持参された物を食される場合、カロリー制限のある方に対してコントロールが難しくなるので報告を頂く様をお願いしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員拘束しないケアに努めています。また身体拘束、虐待についての研修に参加しています。		身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為とは何かを熟知するように努力しています。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけておりません。		同左
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	何を行なっても利用者の所在を把握するように努めています。夜間に於いては侵入を想定し全ての場所の戸締りを役割を決めて行なっています。		同左
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てが危険なもの・事柄と見なせば見なせます。包丁は高い所に、洗剤類は所定の場所に保管しています。また食事時にはテレビを消すようにしています。誤嚥防止や食事に集中して頂く為です。		同左
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に所在の確認それと眠剤を服薬した夜間の対応に、誤嚥については姿勢・切る野菜の大きさなどに注意を払うよう指示しています。		マニュアルの見直しや計画的に勉強会を持っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ひやりはっと記録は行い各人読むようにしている。又会議の席上で報告・検討している。他にマニュアル化して熟知するようにしている。AED(除細動器)を設置し講習をうけています。		非常に大切なことであるので全職員が確実にこなえるように定期的に訓練していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1度の避難訓練を行なっています。地域協力員や消防署立会いの大掛かりな訓練は年2回行なっています。又自動通報装置を設置したり業者による定期点検を施行しています。		水害に対する訓練は行なっていませんが他全てを想定した訓練を行なっています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時及びケアプラン作成に当ってお話し合いをしています。又説明時に於いても行っています。また状況変化がある時には今後の予測も一応お話ししています。		同左
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	今回の場合(Iさん)気づきは速かったものの、判断に甘さが見られ診断に1週間いる事に反省点がある。	○	確実に記録し確実に報告する事を今後も指導し継続していく事とする。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量については理解しているが薬が変更になった場合、(特に安定剤が変更になった時)の副作用等については状態を記録し、申し送りをきちんと行い変化を見逃さないように注意している。		通院時に処方される薬の名前や効能・副作用を覚えるようにし、また疑問を持つ目を養っていけるようにしたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人で摂取出来ない方の確実な水分補給・繊維質の食材身体を動かす・成るべく薬に頼らない便秘予防を心掛けるよう支援しています。		排便表を利用し服薬を行なっていますが、出来るだけ薬に頼らない取り組みをしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	出来る方には声掛けを出来ない方には介助にて行なっています朝、夕は確実にこなしていますが、昼食後は難しく、うがいやお茶を飲んでもらうだけで終わってしまう人もいます。又おやつ時にはお茶や水分を充分摂取するように声掛けや支援を行っています。		自分で出来ない方については、出来る限り日に3回確実に支援出来る様努めていきたい。又自立している方についても声掛けなどで確認したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	便秘の原因の多様性については今後の課題と思うものの水分補給と身体を動かさなくてはならない事を認識している。食事の時のお茶と午前、午後のお茶は確実に飲んでいただくように配慮している。		あくまで自立支援ですが、体調や気分の乗らない時には介助する場合があります。出来るだけ残さず、飲み物についてはお代わりも大いに結構ですと話しています。体力維持等の基本ですので注意しております。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食前の手洗い(利用者はアルコール消毒)・食事後の洗浄・その日最後の使用物品の消毒、汚物処理に対するマニュアル通りの行為や感染症に対しては職員は初期に全員接種し、ご利用者は家族の同意を得て予防接種を行なっています。		同左以外にも臨時的に行なわれるものがあれば対応して行きたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	翌朝までの食材を地元の商店より地産地消の方針の元納入して頂き使い切るようにしています。		今後も同左
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花・観葉植物・菊等シーズンに合わせて玄関先を飾り、椅子を用意し生垣から入って頂く様に楽しめるプランターも揃えてお客様をお待ちしています。		殆ど活動の中で楽しみながら行なっていますので今後も計画的に行なって行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ玄関には生の鉢植えや花をあしらひ、カウンターには季節の花をと心掛けています。その他の面についても夫々対応しています。玄関に飾る生け花は入居者の方に生けていただいています。		壁面を利用した掲示物も季節に応じて変えています。写真の展示等は2ヶ月に1回替えるように配慮しています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の上がり框の座席及び廊下のスペースを利用した「パブリック」を設けています。又掘りごたつを用意し楽しい語らいの場を提供しています。		同左

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使い慣れた物を持ち込んで頂いています。それを事前に職員が日に干したり準備しご家族のお泊りを支援しています。(時には職員がお送りすることも)		今後も同左
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	開放的な造りでもあるので季節に合わせて、又月の目標としても左記に関しては実行している事柄です。		特に冬季に注意を要するので心して行なって行きたい。
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今年は浴槽に手すりを取り付けて安全面を考慮してます。		ターミナルケアを考慮した造りではない為不具合が生じてきています。今後の事を考えてハード面にも手を加えなければならない事を運営者に訴えて行こうと思います。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	コミュニケーションを密にし、一人ひとり状態にあった支援をするようにしています。		個々人の特徴を全職員が情報として持ち適切な支援を行える又チームとしても連携できるようにしたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にイスをおいて、疲れたらすぐに休める様に配慮しています。		花壇・畑は希望とする物では無いので資材を用意し造成に着手予定です。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほほ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・職員体制を常時3～4人体制にする事により、一人ひとりの利用者へのケアが充分に出来る。
- ・経験に応じた研修を受講して貰いスキルアップを図り現場で活かしている。結果殆どの職員が何らかの有資格者である。
- ・農村公園に隣接していることから外気浴や散歩・お花見・どんぐり拾い・栗拾い等四季折々の楽しみを行なえ又室内からも愛でることが出来ます。
- ・近くに新幹線の駅や高速道路のインター等有り交通の便にも恵まれていることから遠方の方々も良く面会に来られます。
- ・共用型のデイサービス・空きベットを利用したショートステイ等を行なっています。
- ・交通の便の良い所で民家の中にあり大型ショッピングセンターも直ぐ近くで住まうにも便利な所です。
- ・グループホームとしては4年目ですが、特養ホームは25年間の歴史があり地域の福祉資源として率先して牽引役を引き受けて来ました。
- ・良心的な料金である。医療関係は比較的近く、その利用が便利である。建物は木造でぬくもりがある。